

Sun Blade X4-2B Oracle® Solaris オペ
レーティングシステムインストールガイ
ド

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
Sun Blade X4-2B モデル名	5
最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得	5
ドキュメントとフィードバック	6
このドキュメントについて	6
サポートとトレーニング	7
寄稿者	7
変更履歴	7
Oracle Solaris OS のインストールについて	9
Oracle Solaris のインストールタスク表	9
サポートされている OS のバージョンおよび最新情報	10
OS のインストールオプション	11
OS のインストールの準備	15
Oracle Solaris のドキュメントの入手	15
インストールセッションのセットアップ	16
BIOS の設定	20
Oracle Solaris OS のインストール	23
Oracle Solaris OS のインストール	23
論理および物理ネットワークインタフェース名を特定する	29
サーバーシステムツールをインストールする (オプション)	31
システムドライバにアクセスする	33
索引	35

このドキュメントの使用方法

このセクションでは、システムの最新のファームウェアとソフトウェア、ドキュメントとフィードバック、およびドキュメント変更履歴の入手方法を説明します。

- 5 ページの「Sun Blade X4-2B モデル名」
- 5 ページの「最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得」
- 6 ページの「ドキュメントとフィードバック」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 7 ページの「サポートとトレーニング」
- 7 ページの「寄稿者」
- 7 ページの「変更履歴」

Sun Blade X4-2B モデル名

名前は Sun Blade **X4-2B** サーバーモジュールを識別します。

- 1: アルファベットの X は x86 製品を示します。
- 2: 最初の数字 4 はサーバーの世代を示します。
- 3: 2 番目の数字 2 は、プロセッサの数を示します。
- 4: アルファベットの B は、製品がブレードサーバーであることを示します。

最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得

Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant - これは、Sun Oracle x86 サーバー用の、出荷時にインストール済みのオプションです。OSA は必要なすべてのツールとドライバを備えており、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブに格納されています。
- My Oracle Support - <http://support.oracle.com>
- 物理メディアのリクエスト

詳細については、『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Sun Blade X4-2B サーバーモジュール	http://www.oracle.com/goto/X4-2B/docs
X4 サーバーシリーズのシステム管理	X4 シリーズサーバー向け Oracle x86 管理ガイド (http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs)
Oracle System Assistant	X4 シリーズサーバー向け Oracle x86 管理ガイド (http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs)
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Hardware Management Pack	http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs
シャーシ Sun Blade 6000 モジュラーシステム	http://www.oracle.com/goto/SB6000/docs

このドキュメントについてのフィードバックは <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で入手できます。情報はトピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

サポートとトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります。

- サポート:<http://support.oracle.com>
- トレーニング:<http://education.oracle.com>

寄稿者

主著者: Lisa Kuder、Ray Angelo、Mark McGothigan

寄稿者: Mike Ma、Qing-su Hu、Lu Wei、Cynthia Chin-Lee、Michael Tabor、Ralph Woodley

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2013 年 9 月初版。

Oracle Solaris OS のインストールについて

このセクションでは、インストールプロセスの概要、サポートされている OS のバージョン、およびインストールオプションについて説明します。

説明	リンク
インストールタスクおよび手順へのリンクのリストを表示します。	9 ページの「Oracle Solaris のインストールタスク表」
サポートされている Solaris OS のバージョンおよび最新情報へのリンクについて説明します。	10 ページの「サポートされている OS のバージョンおよび最新情報」
Solaris OS のインストールのオプションを参照してください。	11 ページの「OS のインストールオプション」

Oracle Solaris のインストールタスク表

次のタスクの表を使用して、Sun Blade X4-2B に Oracle Solaris のサポートされているバージョンをインストールします。

手順	説明	リンク
1	サポートされている Solaris OS のバージョンの一覧を確認し、サーバーソフトウェアおよびハードウェアに関する最新情報を取得する方法を説明します。	10 ページの「サポートされている OS のバージョンおよび最新情報」
2	単一のサーバーまたは複数のサーバーでの OS のインストールのオプションを確認します。	11 ページの「OS のインストールオプション」
3	Oracle System Assistant の概要およびそれを使用してサーバーを管理する方法について確認します。	12 ページの「Oracle System Assistant」
4	必要な手順を実行して、OS のインストールの準備を行います。	15 ページの「OS のインストールの準備」

サポートされている OS のバージョンおよび最新情報

このセクションを使用して、Oracle Solaris オペレーティングシステム (OS) のサポートされているバージョンおよび最新のサーバー関連情報を取得する方法について学習します:

- 10 ページの「サポートされている Oracle Solaris Operating System のバージョン」
- 10 ページの「プロダクトノートの最新情報」

サポートされている Oracle Solaris Operating System のバージョン

このサーバーのリリース時点で、Sun Blade X4-2B サーバーモジュールは次の Oracle Solaris OS のバージョンをサポートします。

- Oracle Solaris 10 1/13
- Oracle Solaris 11.1

サポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、次を参照してください。

<https://wikis.oracle.com/display/SystemsComm/Sun+Blade+Systems+Products#tab:Operating-Systems>

関連情報: 10 ページの「プロダクトノートの最新情報」

プロダクトノートの最新情報

サーバーに関する最新情報は、『Sun Server X4-2B プロダクトノート』で保持されています。『プロダクトノート』ドキュメントには、サーバーの利用可能なファームウェア更新およびハードウェアまたはソフトウェアの問題に関する詳細情報が記載されています。

このドキュメントおよびその他のサーバー関連のドキュメントは、次にあるサーバーのドキュメントライブラリでオンラインで入手できます。

<http://www.oracle.com/goto/X4-2B/docs>

OS のインストールオプション

OS を単一のサーバーにインストールするか、複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントの適用範囲は、単一サーバーでの OS のインストールです。次の表に、これら 2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	<p>Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用して、OS を複数のサーバーにインストールする方法については、次を参照してください。</p> <p>http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html</p>
単一のサーバー	<p>次のいずれかの方法を使用して、単一のサーバーに OS をインストールします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ローカル: OS のインストールは、サーバーでローカルに実行されます。物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりの場合に、このオプションを使用します。追加のハードウェアが必要です。 ■ リモート: OS のインストールはリモートの場所から実行されません。Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、手動による OS のインストールを実行します。 <p>注 - Oracle System Assistant は、単一のサーバーでの OS のローカルまたはリモートインストールのためのもっとも簡単な方法です。</p>

関連情報:

- 11 ページの「単一サーバーへのインストール方法」

単一サーバーへのインストール方法

Oracle Solaris インストールメディアの配布方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルかリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および Solaris 配布メディア。詳細については、12 ページの「補助付き OS インストール」を参照してください。

メディアの配布方法	その他の要件
リモートでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	Oracle ILOM リモートコンソール、リダイレクト先の CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、および Solaris 配布メディア。詳細については、 12 ページの「補助付き OS インストール」 を参照してください。
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 - サーバーに接続した物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、および Oracle Solaris 配布メディア。詳細については、 12 ページの「手動による OS インストール」 を参照してください。
リモートでの CD/DVD ドライブまたは CD/DVD の ISO イメージの使用 - Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上の、リダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを実行しているリモートシステム、物理 CD/DVD ドライブが接続されていること、Oracle Solaris 配布メディア、サーバーの管理ポートに対するネットワークアクセス。詳細については、 12 ページの「手動による OS インストール」 を参照してください。

補助付き OS インストール

これは、サポートされている OS をサーバーにインストールするためのもっとも簡単な方法です。この方法では、Oracle System Assistant を使用します。ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/DVD イメージのいずれかで Solaris OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant がインストールプロセスを進め、必要に応じて必要なドライバをインストールします。

関連情報:[12 ページの「Oracle System Assistant」](#)

手動による OS インストール

この方法では、Oracle Solaris 配布メディアをローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、または CD/DVD イメージで提供します。必要なドライバを提供する必要もあります。サーバー用のドライバは、My Oracle Support サイトからサーバー固有および OS 固有のパッケージとして入手できます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールスクリプトを使用します。

関連情報:[15 ページの「OS のインストールの準備」](#)

Oracle System Assistant

このセクションには、次のトピックが含まれています。

- [13 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)
- [13 ページの「Oracle System Assistant の OS のインストールタスク」](#)
- [13 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant の概要

Oracle System Assistant は、システムに組み込まれた USB ストレージデバイス上にサーバーの一体部分として提供され、スタンバイ電源を供給すればすぐに使用できます。この埋め込みのストレージデバイスには、サポートされるオペレーティングシステムおよびハードウェアを自分で選択してサーバーの使用を開始するために必要なものがすべて含まれています。オペレーティングシステムのインストールメディアを用意すれば、Oracle System Assistant でほかのすべてのものが提供されません。Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです：

- 起動と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- オペレーティングシステムが使用するドライバとツール
- サーバー固有のファームウェア
- Hardware Management Pack
- サーバー関連ドキュメント

関連情報:

『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

Oracle System Assistant の OS のインストールタスク

Oracle System Assistant OS インストールタスクは、サポートされている OS のインストールを支援します。OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant の手順に従ってインストールプロセスを実行できます。ただし、サーバーでサポートされている OS をインストールすれば、Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバに加えてすべてのファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、HBA、エクспанダ) を更新できます。

Oracle System Assistant にはローカルでもリモートでもアクセスできます。サーバーのインストールが終了した直後の場合、Oracle System Assistant を (物理的にサーバー側にいる間に) ローカルで使用することで、サーバーを迅速かつ効率的に起動できます。サーバーの稼働後は、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

Oracle System Assistant の取得

Oracle System Assistant は、サーバーにすでにインストールされていることもあります。サーバーに Oracle System Assistant が存在するかどうかの確認方法、および更新や復旧手順の実行方法については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

OS のインストールの準備

このセクションでは、OS のインストールの準備手順について説明します。次のタスク表をガイドとして使用してください。

手順	タスク	リンク
1	OS インストールのタスクの表をすでに確認している必要があります。	9 ページの「Oracle Solaris OS のインストールについて」
2	インストールドキュメントを入手します。	15 ページの「Oracle Solaris のドキュメントの入手」
3	選択したインストール方法に基づいてインストールのセットアップを行います。	16 ページの「インストールセッションのセットアップ」
4	最適なデフォルト値をロードし、BIOS モードを選択して、BIOS を準備します。	20 ページの「BIOS の設定」
5	OS のインストールおよび更新	23 ページの「Oracle Solaris OS のインストール」

Oracle Solaris のドキュメントの入手

Oracle Solaris オペレーティングシステムのサポート対象バージョンのドキュメントは次で入手できます。

- Oracle Solaris 10:
<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/solaris-10-192992.html>
- Oracle Solaris 11:
<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/solaris-11-192991.html>

注 - Oracle Solaris のドキュメントは、Oracle Solaris OS ソフトウェアに同梱の Documentation DVD にも収録されています。

インストールセッションのセットアップ

このセクションでは、ローカルまたはリモートインストールセッションをセットアップする方法について説明します。OS のローカルインストールはサーバーで実行されます。リモート OS インストールは、JavaRConsole System、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション、およびリダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは CD ISO イメージを使用して実行されます。

- 16 ページの「ローカルインストールのセットアップ」
- 17 ページの「リモートインストールのセットアップ」

▼ ローカルインストールのセットアップ

OS のローカルインストールはサーバーで実行されます。ローカルインストール方法として推奨される手順は、Oracle System Assistant の OS のインストールタスクを使用することです。この手順を使用して、ローカルの Oracle System Assistant の補助付きインストールまたはローカルの手動 (補助なし) インストールを設定します。

注-OS のローカルインストールの場合、追加のハードウェアが必要で、サーバーの Web アクセスが推奨されます。

- 始める前に
- 『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』の説明に従って、サーバーのインストールをすでに実行しているはずで
 - 次の項目が必要です。
 - 15 ピン (DB-15) コネクタ機能を備えたビデオモニター
 - USB キーボードとマウス
 - USB デバイス (CD/DVD ドライブまたはサムドライブ)
 - Sun Blade Modular System 3 ケーブルドングル
 - サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるようにするために、サーバーの Web アクセスが推奨されます。
- 1 サーバーがスタンバイ電力モードであることを確認します。
 - 2 サーバーモジュールの前面にあるユニバーサルコネクタポート (UCP) に 3 ケーブルドングルを接続します。
 - 3 ビデオモニターを 3 ケーブルドングルのビデオコネクタに接続します。
 - 4 キーボードおよびマウスをサーバーの前面の USB 接続のいずれかに (または 3 ケーブルドングルの USB コネクタのいずれかに) 接続します。
 - 5 CD/DVD ドライブをサーバーの前面にあるほかの USB コネクタに (または 3 ケーブルドングルの USB コネクタのいずれかに) 接続します。

次の手順 20 ページの「BIOS の設定」

▼ リモートインストールのセットアップ

リモート OS インストールは、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションおよびリダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは CD ISO イメージを使用して実行されます。リモートインストールのもっとも簡単な方法は、Oracle System Assistant の補助付き OS インストールタスクを使用することです。この手順を使用して、リモートの Oracle System Assistant の補助付きインストールまたはリモートの手動(補助なし)インストールを設定します。

注 - CD-ROM または CD-ROM イメージのオプションを使用して OS をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするため、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールの所要時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。また、このインストール方法では、一時的なネットワークエラーにより問題が生じるリスクが高くなります。

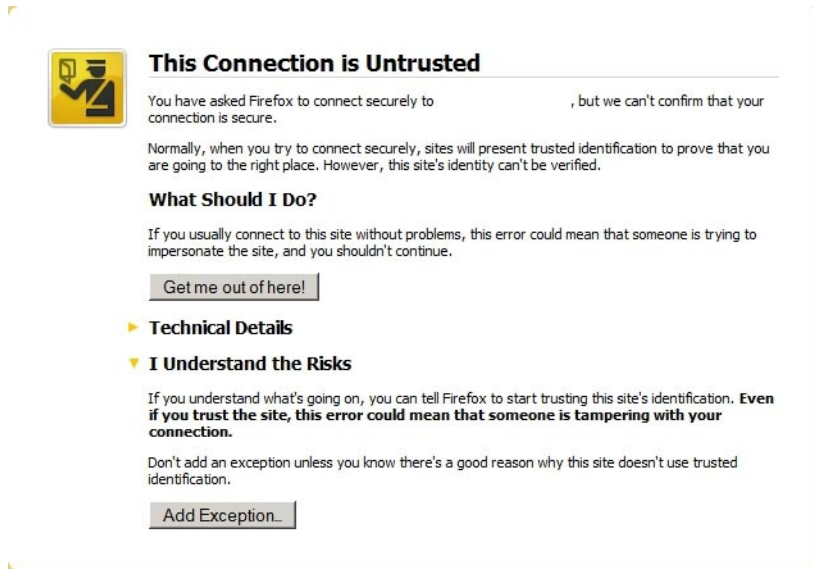
始める前に 次の要件を満たしている必要があります。

- 『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』の説明に従って、サーバーのインストールをすでに実行しているはずですが。
- Oracle ILOM リモートコンソールシステム:
 - Oracle Solaris、Linux、または Windows で実行されている必要があります。
システムが Windows を実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能が無効にします。
システムで Solaris を実行している場合は、JavaRConsole が CD/DVD-ROM ドライブにアクセスできるように、ボリューム管理を無効にする必要があります。
 - Sun サーバーの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークにシステムが接続されている必要があります。
- Java Runtime Environment (JRE) 1.5 がインストールされている必要があります。
- サーバーサービスプロセッサ (SP) が、使用しているサーバーの Oracle ILOM ドキュメントの手順に従ってセットアップ済みです。
- Oracle ILOM にアクセスするための SP IP アドレスが必要です。SP IP アドレスの特定については、『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』を参照してください。
- サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるように、サーバーの Web アクセスが必要です。

注- この手順に示されているスクリーンショットの一部は、表示される画面とは異なる場合があります。

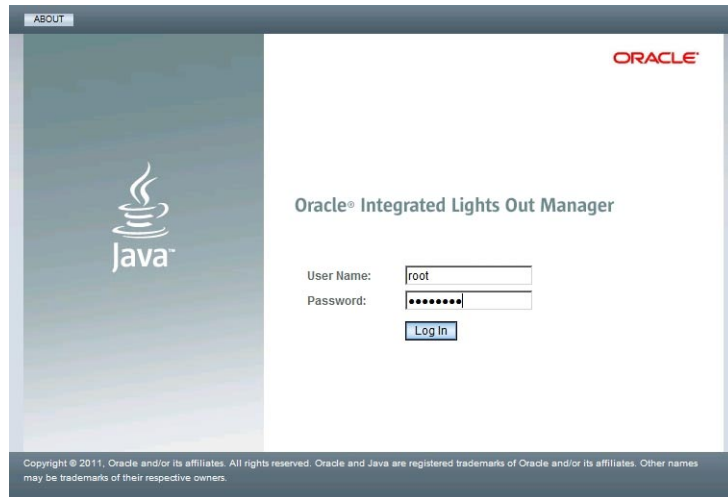
- 1 Oracle ILOM にアクセスするには、リモートコンソールシステムで Web ブラウザにサービスプロセッサの IP アドレスを入力します。

「Security Alert」ダイアログボックスが表示されます。

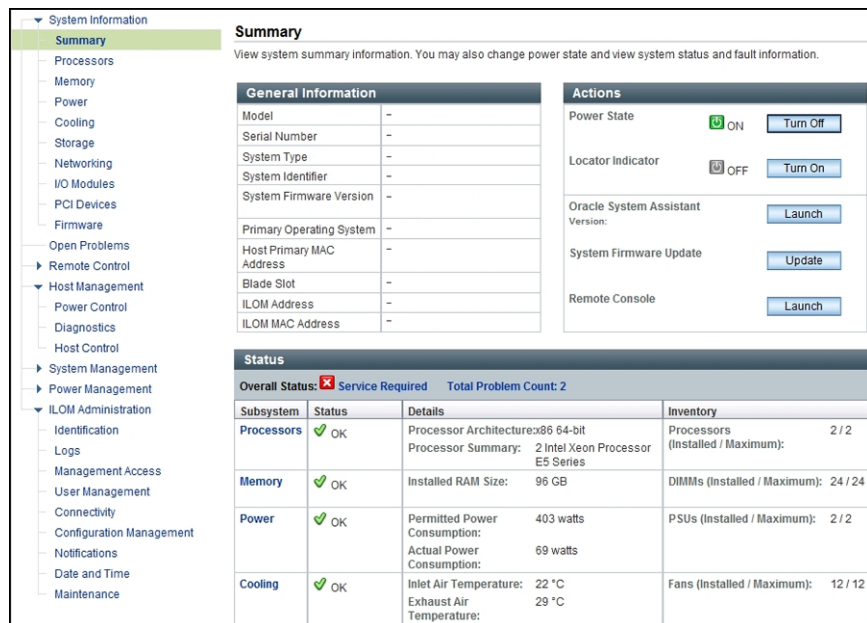


- 2 「I Understand the Risks」リンクをクリックします。

- 3 「Add Exception」をクリックします。
Oracle ILOM のログイン画面が表示されます。



- 4 ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In」をクリックします。
デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。
Oracle ILOM の「System Summary」画面が表示されます。

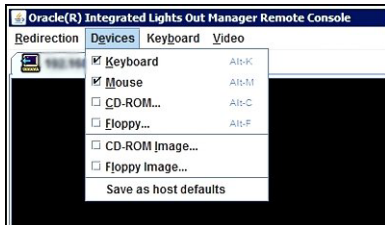


Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: 2 Intel Xeon Processor E5 Series	Processors (Installed / Maximum): 2 / 2
Memory	OK	Installed RAM Size: 96 GB	DIMMs (Installed / Maximum): 24 / 24
Power	OK	Permitted Power Consumption: 403 watts Actual Power Consumption: 69 watts	PSUs (Installed / Maximum): 2 / 2
Cooling	OK	Inlet Air Temperature: 22 °C Exhaust Air Temperature: 29 °C	Fans (Installed / Maximum): 12 / 12

- 5 「Remote Console Launch」 ボタンをクリックします。
jnlpgenerator.jnlp ファイルのダイアログボックスが表示されます。



- 6 「Open」 をクリックします。
「Oracle ILOM Remote Console」 画面が表示されます。



- 7 「Devices」 メニューから、選択した配布方法に従って1つのCD項目を選択します。
 - **CD-ROM リモート。** Oracle ILOM リモートコンソールシステムに接続された CD/DVD-ROM ドライブからオペレーティングシステムソフトウェア CD/DVD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。
 - **CD-ROM イメージ。** JavaRConsole システム上にあるオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image」を選択します。

次の手順 [20 ページの「BIOS の設定」](#)

BIOS の設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように、BIOS 設定が構成されていることを確認すべきです。次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています。

- [21 ページの「BIOS の最適なデフォルト設定のロード」](#)
- [21 ページの「BIOS モードの設定」](#)

▼ BIOS の最適なデフォルト設定のロード



注意- この手順では、BIOS の設定をデフォルト値にリセットし、以前にカスタマイズした設定をすべて上書きします。カスタマイズされた設定を維持するには、デフォルト値をロードする前に、各メニューを確認し、カスタマイズされた値を書きとめます。

BIOS 設定ユーティリティーには、サーバーにとって最適な BIOS 設定をロードするためのオプションが含まれています。この手順を新しく設置されたサーバーで実行して、BIOS が最適なデフォルト値に設定されるようにします。

- 始める前に
- サーバーにはストレージドライブが適切に取り付けられています。
 - サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細については、[16 ページの「インストールセッションのセットアップ」](#)を参照してください。
- 1 サーバーの電源を入れます。
ビデオ (KVM または RKVM) コンソールに POST メッセージが表示されます。
 - 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2** を押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。
 - 3 出荷時のデフォルト値が設定されるようにするには、**F9** を押します。
 - 4 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、**F10** を押します。

次の手順 [21 ページの「BIOS モードの設定」](#)

▼ BIOS モードの設定

BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS と UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の両方をサポートしていますが、デフォルト設定は「Legacy」です。

注 - Sun Blade X4-2 サーバーの初期リリース時、Solaris 11.1 は UEFI モードをサポートし、Solaris 10 1/13 は UEFI をサポートしません。

次は、OS をインストールする前に BIOS モードを設定するためのオプションです。

- OS がレガシー BIOS だけをサポートしている場合は、OS のインストールを行う前に、BIOS がレガシーモードに設定されていることを確認する必要があります。

- OSがレガシーBIOSとUEFI BIOSの両方をサポートしている場合は、OSのインストールを実行する前に、レガシーモードとUEFIモードのどちらかにBIOSを設定できます。
- 1 サーバーの電源を入れます。
コンソールにPOSTメッセージが表示されます。
 - 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2**を押して**BIOS**設定ユーティリティーにアクセスします。
BIOS設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。
 - 3 **BIOS**設定ユーティリティーで、左右の矢印キーを使用して「**Boot**」画面に移動します。
「**Boot Menu**」画面が表示されます。
 - 4 下矢印キーを使用して、「**UEFI/BIOS Boot Mode**」フィールドを選択します。
 - 5 **Enter**キーを押し、上下の矢印キーを使用して「**Legacy BIOS**」オプションを選択します。
 - 6 変更を保存して**BIOS**設定ユーティリティーを終了するには、**F10**を押します。

次の手順 [23 ページの「Oracle Solaris OS のインストール」](#)

Oracle Solaris OS のインストール

このセクションでは、Oracle Solaris OS をインストールする方法について説明します。論理および物理ネットワークインタフェース名の特定手順およびサーバーシステムツールのインストール手順についても説明します。

手順	説明	リンク
1	インストールを開始します。	23 ページの「Oracle Solaris OS のインストール」
2	ネットワークに接続されたサーバー用にオペレーティングシステムを構成しているときは、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) の指定が必要となる場合があります。	29 ページの「論理および物理ネットワークインタフェース名を特定する」
3	Oracle Solaris OS システムツールをインストールし、Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードしたソフトウェアパッケージに含まれているドライバにアクセスします。	<ul style="list-style-type: none">■ 31 ページの「サーバーシステムツールをインストールする (オプション)」■ 33 ページの「システムドライバにアクセスする」

Oracle Solaris OS のインストール

このセクションでは、次の手順について説明します。

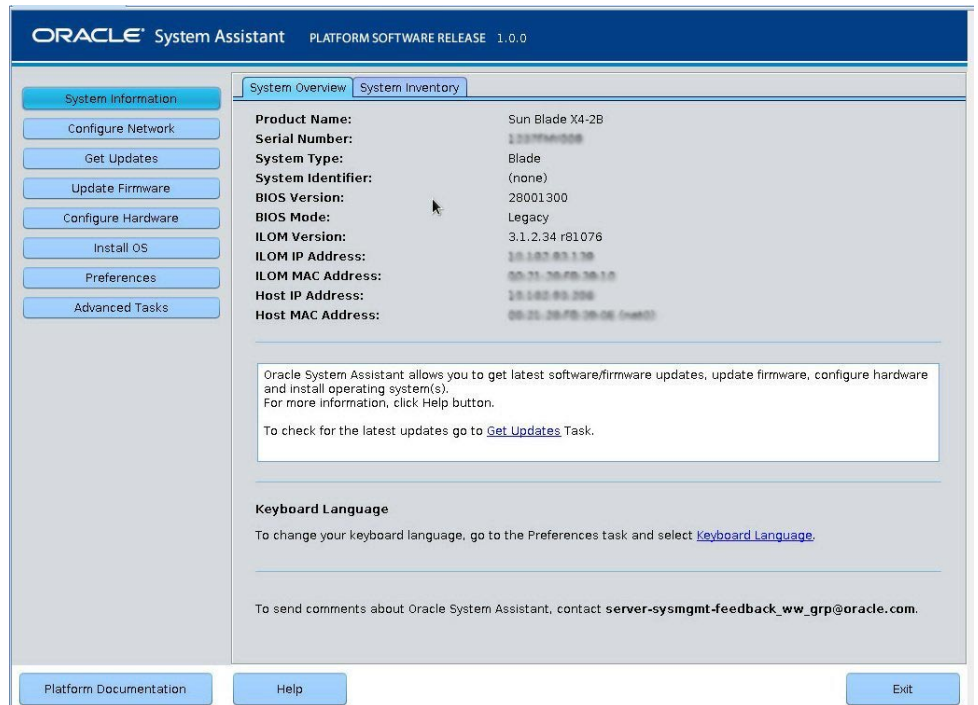
- [23 ページの「Solaris OS をインストールする \(Oracle System Assistant\)」](#)
- [28 ページの「Oracle Solaris OS をインストールする \(手動\)」](#)

▼ Solaris OS をインストールする (Oracle System Assistant)

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、サポートされている Oracle Solaris OS のバージョンの補助付き OS インストールを提供します。

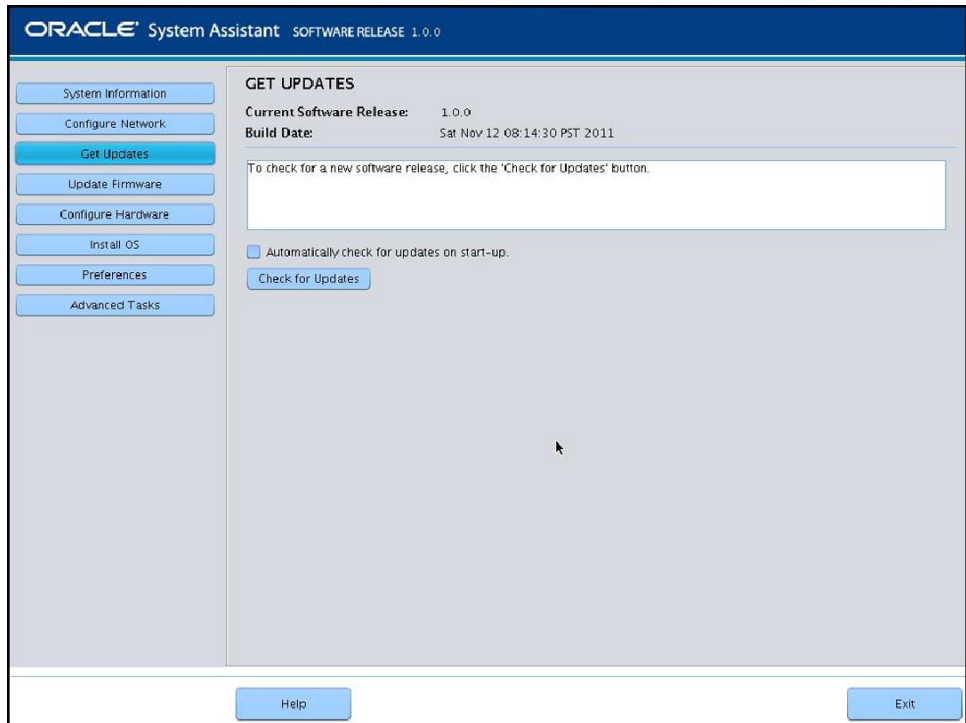
- 始める前に
- サーバーストレージドライブを準備します。詳細は、『[Sun Blade X4-2B 設置ガイド](#)』を参照してください。
 - 15 ページの「[OS のインストールの準備](#)」の手順を実行します。
 - OS のインストールおよび構成プロセス中、論理および物理ネットワーク名を指定することが必要な場合があります。詳細については、29 ページの「[論理および物理ネットワークインタフェース名を特定する](#)」を参照してください。
 - ローカルインストールの場合は、プロンプトが表示されたら、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。
 - リモートインストールの場合、Oracle ILOM リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。Oracle ILOM リモートコンソールの「Devices」メニューから、「CD-ROM」を選択していることを確認してください。
 - ISO イメージを使用している場合、Oracle ILOM リモートコンソールシステムからそのイメージにアクセスできることを確認します。Oracle ILOM リモートコンソールの「Devices」メニューから、「CD-ROM Image」を選択していることを確認してください。
- 1 サーバーがスタンバイ電源モードになっていることを確認します。
 - 2 サーバーをブートし、ビデオモニターまたは **Oracle ILOM** リモートコンソール画面を注視して、**F9** キーを押して **Oracle System Assistant** に入るように求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。

- 3 プロンプトが表示されたら **F9** キーを押します。
Oracle System Assistant のメイン画面が表示されます。



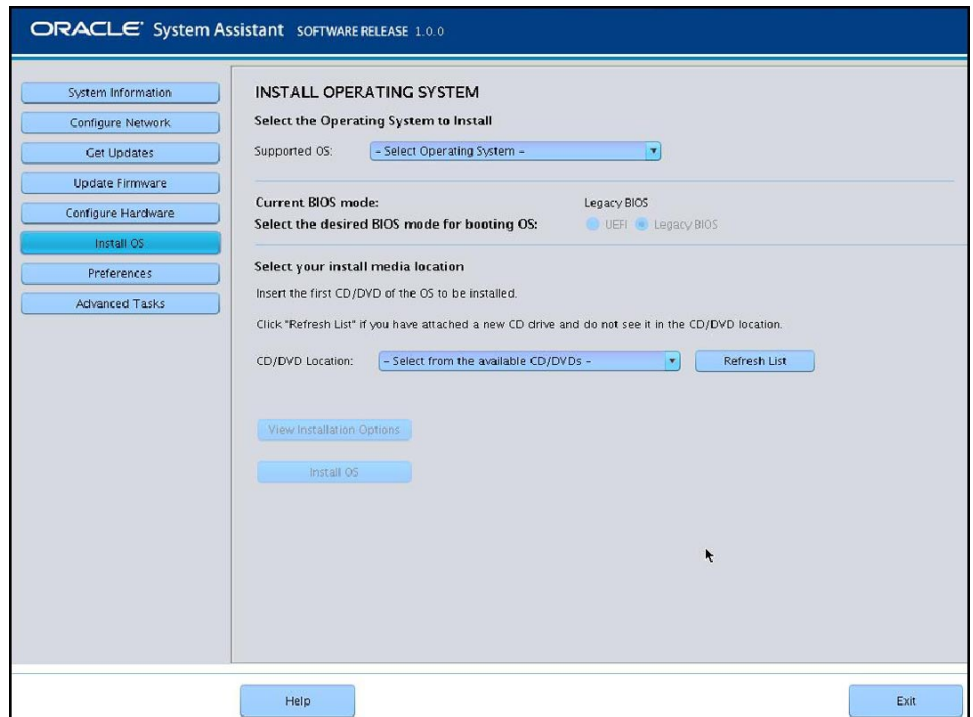
- 4 Oracle System Assistant アプリケーションを更新するには、「**Get Updates**」ボタンをクリックします。
このアクションにより、OS のインストール開始前に、アプリケーションのファームウェアおよびドライバが確実に最新のものになります。

注 - Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。



- 5 サーバーのファームウェアを更新するには、「**Update Firmware**」ボタンをクリックします。
このアクションにより、OS のインストール開始前に、サーバーのファームウェアが確実に最新のものになります。

- OSをインストールするには、「Install OS」ボタンをクリックします。
「Install OS」画面が表示されます。



- 「Select Operating System」ドロップダウンリストから、OSを選択します。
- BIOSモードを選択します。詳細については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)を参照してください。
- 「Select your install media location」セクションで、インストールメディアの場所を指定します。
これはOS配布メディアの場所です。CD/DVDドライブを接続した場合は、ドロップダウンリストに表示するために「Refresh」ボタンのクリックが必要になることがあります。
- デバイスを選択するには、「View Installation Options」をクリックします。
これは、OSをインストールするデバイスです。



注意-データの損失。OSのインストールによって、ディスクの内容が消去されます。選択したディスク上のデータはすべて消去されます。

- 11 OSのインストールを開始するには、「Install OS」をクリックします。
- 12 プロンプトに従ってインストールを完了します。
サーバーがブートします。

次の手順 [31 ページの「サーバーシステムツールをインストールする \(オプション\)」](#)

▼ Oracle Solaris OS をインストールする (手動)

この手順を使用し、CD/DVD インストールメディアまたは ISO イメージを使って OS をローカルまたはリモートにインストールします。

- 始める前に
- [15 ページの「OS のインストールの準備」](#) セクションの手順を実行します。
 - OS のインストールおよび構成プロセス中、論理および物理ネットワーク名を指定することが必要な場合があります。詳細については、[29 ページの「論理および物理ネットワークインタフェース名を特定する」](#) を参照してください。
 - Oracle Solaris OS のインストールドキュメントを確認します。
 - Oracle Solaris 10:
<http://download.oracle.com/docs/cd/E19253-01/index.html>
 - Oracle Solaris 11.1:
<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/solaris-11-192991.html>
- 1 インストールメディアがプライマリブートドライブにインストールされていることを確認します。
 - 2 サーバーの電源を入れます。
サーバーは CD/DVD または CD/DVD ISO イメージからブートし、「Solaris Installation Program」画面が表示されます。
 - 3 テキストまたは GUI ベースのインストールプログラムを使用して OS をインストールします。

次の手順 [31 ページの「サーバーシステムツールをインストールする \(オプション\)」](#)

▼ 論理および物理ネットワークインタフェース名を特定する

ネットワークに接続されたサーバー用にオペレーティングシステムを構成しているときは、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) の指定が必要となる場合があります。ここでは、この情報を取得する方法を説明します。

論理名および物理名 (MAC アドレス) を含む、MAC アドレスとネットワークインタフェースに関する情報を表示するには、この手順を使用します。

- 1 「Install Type」メニューで、「Option (6) Single User Shell」を選択して、**Enter** を押しません。

注-別の方法として、これらのコマンドをコマンドシェルから実行することもできます。

OS インスタンスのマウントに関するメッセージが表示されたら、**q** を選択します。OS インスタンスはマウントしません。

メッセージ "Starting Shell" が表示されます。次の図を参照してください。

```

1. Solaris Interactive (default)
2. Custom JumpStart
3. Solaris Interactive Text (Desktop session)
4. Solaris Interactive Text (Console session)
5. Apply driver updates
6. Single user shell

Enter the number of your choice.
Selected: 6

Single user shell

Searching for installed OS instances...

Multiple OS instances were found. To check and mount one of them
read-write under /a, select it from the following list. To not mount
any, select 'q'.

 1 /dev/dsk/c2t0d0s0 Solaris 10 6/06 s10x_u2wos_08 X86
 2 /dev/dsk/c2t1d0s0 Solaris 10 6/06 s10u2_08-DN-WOS X86

Please select a device to be mounted (q for none) [?,?,q]: q

Starting shell.
#
```

- 2 コマンドプロンプト (#) で次のコマンドを入力して、すべてのネットワークインタフェースを **plumb** します。

```
# ifconfig -a plumb
```

注 - plumb プロセスには時間がかかることがあります。

- 3 コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# ifconfig -a
```

Solaris の名前付きインタフェースおよび MAC アドレスの出力が表示されます。例:

```
# ifconfig -a lmore
e1000g0: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 2
  inet 0.0.0.0 netmask 0
  ether 0:14:4f:c:a1:ee
e1000g1: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 3
  inet 0.0.0.0 netmask 0
  ether 0:14:4f:c:a1:ee
e1000g2: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 4
  inet 0.0.0.0 netmask 0
  ether 0:14:4f:c:a1:ee
e1000g3: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 5
  inet 0.0.0.0 netmask 0
  ether 0:14:4f:c:a1:ee
e1000g4: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 6
  inet 0.0.0.0 netmask 0
  ether 0:14:4f:c:a1:ee
e1000g5: flags=1000842<BROADCAST,RUNNING,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 1
  inet 0.0.0.0 netmask 0
  ether 0:14:4f:c:a1:ee
e1000g6: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 7
  inet 0.0.0.0 netmask 0
  ether 0:14:4f:c:a1:ee
e1000g7: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 8
  inet 0.0.0.0 netmask 0
```

上の出力例での場合:

- 最初の列の e1000g# エントリは、Solaris 論理名付きインタフェースです。出力の最初の列は、Solaris がネットワークインタフェースに割り当てた論理名を表します。
- 2 列目 (3 行目) の ether #:#:#:#:# エントリは、ネットワークポートの物理 MAC アドレス名です。

例:

Solaris の名前付きネットワークインタフェース「e1000g0」の物理 MAC アドレスは、「0:14:4f:c:a1:ee」です。

- 4 この情報をファイルに保存するか、書きとめます。
- 5 システム構成スクリプトを起動するには、コマンド行で **sys-unconfig(1M)** と入力します。
このコマンドは、システム構成を工場出荷時のデフォルトに復元します。



注意 - `sys-unconfig(1M)` コマンドを実行するとシステムが停止し、工場出荷時の設定が復元されます。このコマンドは、システムを再構成する準備ができていないかぎり実行しないでください。

例:

```
# sys-unconfig
WARNING
This program will unconfigure your system. It will cause it
to revert to a "blank" system - it will not have a name or know
about other systems or networks.
This program will also halt the system.
Do you want to continue (y/n) ?
```

システムがリブートされ、構成スクリプトが開始されます。

▼ サーバシステムツールをインストールする(オプション)

LSI MegaRAID Storage Manager (LSI MSM)、MegaCLI、および Oracle Hardware Management Pack を含むサーバシステムツールは、Oracle System Assistant ソフトウェアおよび <http://support.oracle.com> からダウンロードした Solaris OS ソフトウェアパッケージに含まれています。この手順を使用して、サーバシステムツールにアクセスし、インストールします。

注 - Solaris 11.1 の追加のソフトウェアは、Oracle Solaris Image Packaging System (IPS) によってインストールできます。詳細は、次を参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E26502_01/html/E28984/index.html

1 次のいずれかを実行します。

■ システムに Oracle System Assistant がある場合:

- a. OS 内でファイルブラウザを開き、Oracle System Assistant の USB デバイスに移動します。

USB デバイスの名前: ORACLE_SSM

USB のマウント手順については、『Oracle X4 シリーズサーバ管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

- b. 適切な Solaris OS Tools フォルダに移動します。

Solaris/OS_name/Tools

ここで、`OS_name` は、インストールされた Solaris OS です。

- システムに **Oracle System Assistant** がない場合:
 - a. **My Oracle Support** サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。
 詳細については、『[Sun Blade X4-2B 設置ガイド](#)』の「[サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手](#)」を参照してください。
 - b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。
 - c. 解凍されたファイルシステム内で、適切な **Solaris OS Tools** フォルダに移動します。
`Solaris/OS_name/Tools`
 ここで、`OS_name` は、インストールされた Solaris OS です。

2 次の表は、ツールをインストールする手順を示します。

ツール	手順
LSI MSM	<ol style="list-style-type: none"> 1. MSM/disk ディレクトリに移動し、<code>install.sh</code> ファイルを実行します。 これにより、インストールスクリプトが開始されます。 2. スクリプトの進捗に従ってインストールを完了します。 詳細については、次にある LSI MSM インストール手順を参照してください。 http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg_x_sas6-r-rem-z.aspx <p>注 - Tools/MSM ディレクトリの <code>readme.txt</code> ファイルには、重要なインストール情報が含まれています。</p>
MegaCLI	<p>MegaCLI ディレクトリに移動し、MegaCLI ファイルを実行します。</p> <p>注 - Tools/MegaCLI ディレクトリの <code>readme.txt</code> ファイルには、重要なインストール情報が含まれています。</p>
Oracle Hardware Management Pack	<p><code>hmp-prerequisite-installation.txt</code> ReadMe ファイル (<code>hmp-tools/oracle-hmp-version/SOFTWARE</code> ディレクトリ内) を参照してください (ここで、<code>version</code> は、Oracle Hardware Management Pack のバージョンです)。</p> <p>詳細については、次にある Oracle Hardware Management Pack ドキュメントを参照してください。 http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs</p>

▼ システムドライバにアクセスする

この手順では、Oracle System Assistant および OS 固有のダウンロードパッケージの Drivers ディレクトリにアクセスする方法について説明します。

1 次のいずれかを実行します。

■ システムに Oracle System Assistant がある場合:

a. OS から、Oracle System Assistant の USB デバイスに移動します。

USB デバイスの名前: ORACLE_SSM

USB のマウント手順については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

b. 適切な Solaris OS Drivers フォルダに移動します。

Solaris/OS_name/Drivers

ここで、OS_name は、インストールされた Solaris OS です。

■ システムに Oracle System Assistant がない場合:

a. My Oracle Support サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。

詳細については、『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。

b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。

c. 解凍されたファイルシステム内で、適切な Solaris OS Drivers フォルダに移動します。

Solaris/OS_name/InstallPack

ここで、OS_name は、インストールされた Solaris OS です。

2 次のいずれかを実行します。

■ すべてのサポートされているドライバを更新またはインストールするには、InstallPack ディレクトリに移動し、InstallPack.py ファイルを実行します。

Solaris/OS_name/InstallPack

InstallPack アプリケーションの指示に従い、ドライバの更新を完了します。

- その他のドライバを更新またはインストールするには、ドライバディレクトリに移動し、**.pkg** ファイルをダブルクリックします。
Solaris/OS_name/Drivers/*driver* ここで、*driver*は、ドライバを含むディレクトリ名です。

索引

B

BIOS

- 最適なデフォルトのロード
 - Solaris, 21
- ブートモード、設定 (Solaris), 21-22

M

- MegaCLI, インストール, 31-33
- MSM, インストール, 31-33

O

- Oracle ILOM
 - リモートコンソールアプリケーション
 - Solaris, 17-20
- Oracle Solaris OS
 - 論理名および物理名によるネットワークインタフェースの特定
 - sys-unconfig コマンド, 30
- Oracle System Assistant
 - OS インストール (Linux), 23-28
 - Solaris, 13
 - インストール, 31-33
- Oracle Solaris OS インストール, ドキュメント, 15
- Oracle Solaris OS のインストール
 - ネットワークインタフェース名, 29-31
 - 物理名, 29-31
- OS のインストール, Solaris, 9-13

S

- Solaris, 「Oracle Solaris」を参照
- sys-unconfig コマンド, 30

U

- UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) BIOS
 - ブートモード
 - Solaris, 21-22

い

- インストール
 - MegaCLI, 31-33
 - MSM, 31-33
 - Oracle System Assistant, 31-33
 - ツールとドライバ
 - Solaris, 31-33
 - リモートセットアップ (Solaris), 17-20
 - ローカルセットアップ (Solaris), 16-17

お

- オペレーティングシステム
 - サポートされているバージョン
 - Solaris, 10

こ

更新
最新情報
Solaris, 10

さ

最適なデフォルト
ロード
Solaris, 21
サポート対象
オペレーティングシステム
Solaris, 10

し

手動による OS インストール, Solaris, 12

せ

設定
BIOS ブートモード
Solaris, 21-22

そ

ソフトウェアおよびハードウェア
情報
Solaris, 10

た

単一サーバーのインストール, 11

つ

ツールとドライバ
インストール
Solaris, 31-33

と

ドキュメント
Oracle Solaris OS, 15
最新版の取得
Solaris, 10
ドライバ, 33-34
ドングルケーブル, 16-17

は

ハードウェアおよびソフトウェア
情報
Solaris, 10

ふ

ファームウェア
更新情報
Solaris, 10
複数のサーバーと単一のサーバー, 11
物理ネットワークインタフェース, 29-31
プロダクトノートドキュメント, Solaris, 10

ほ

補助付き OS インストール
Linux, 12, 23-28

り

リモートインストール, セットアップ
(Solaris), 17-20

れ

レガシー BIOS
ブートモード
Solaris, 21-22

ろ

ローカルインストール, セットアップ

(Solaris), 16-17

論理ネットワークインタフェース, 29-31

